



クローバー動物病院

だより 第14号



今回は、イヌの肥満(ひまん)についてです。

イヌの肥満(ひまん)

日本でも、近年では室内でイヌを飼育する傾向になり、食べ物が身近にあることから、つい過食となり、エネルギーを過剰摂取する機会が多くなりました。その結果、肥満を招くこととなります。

そして、肥満は多くの健康を損なう原因となります。例えば、

糖尿病・心臓疾患・呼吸器疾患・関節炎・外科手術時の処置の問題・他の疾患の治療の妨げ

以上のような障害を引き起こします。

1 肥満の定義

標準体重に比べ、**15%以上の体重増加や脂肪組織の増加したものが肥満と定義されます。**脂肪組織の増加は、横腹の皮下組織の厚さの測定によって判定されます。通常、外見だけでははっきりしませんが、触ってみると簡単にわかります。

2 肥満の発生率

イヌ…24.3%~44%

イヌの祖先は北方系で、寒さとの戦いや、広大な狩猟地帯での激しい筋肉労働を強いられる必然性から暴食の傾向があるそうです。

5 食餌療法の必要性

イヌの肥満は、ほとんどの場合、消費する以上のカロリーを摂取し、その結果、多くの脂肪を蓄えてしまうという単純な原因によります。

まれな例をのぞき、**一般的な原因は過食**にあります。過剰な体重は実際に健康を損ねる一因となるため、減量がどうしても必要になってきます。

6 減量プログラムを成功させる方法

①第一に**飼主さんの意志の強さが必要**です。

②食事は1日に何回か分けて与える。

③スナック類やおやつを与える量を減らす。

決まった時間におやつをもらっている子は、その時間になると『おやつがもらえる』と覚えています。しかし、急にもらえなくなると、そのことがかえってストレスになってしまうことがあります。おやつは、**回数でなく、与える量を減らしてください。**

④家族が食事をするときにはイヌを別の部屋に移す。

⑤すべての食事やおやつは、イヌの食器にのみに入れるようにする。

⑥食べ物以外に注意を向けさせる。

⑦散歩に連れて行く。

⑧散歩は最初、ゆっくりと少しずつ行う。

⑨徐々に散歩時間を延ばしてください。最初10分、1週間後15分、その後1週ごとに5~10分ずつ増やし、1日30~40分程度の散歩が必要といわれています。

3 肥満発生の傾向

- ①オスよりはメスのほうがなりやすい。
- ②去勢オス・避妊メスはなりやすい。
⇒メス・オス共通に肉体的活動が不活発になりやすく、また蛋白同化作用が低下するため、脂肪形成が助長されやすい。
- ③シニア犬（7歳以上のイヌ）
⇒基礎代謝の低下および肉体的活動の低下のため。
- ④たくさん食べる飼主さんに飼われている場合。
- ⑤食べすぎ
⇒ヒトの残り物（特に脂肪の多い物）を与えすぎた場合、または、甘いもの（菓子類）を多く与えている場合。

4 肥満が引き起こす病気

- ①関節炎、椎間板ヘルニア、腰部の異常、骨関節の疾患。
：そのため肉体的活動の不活発をきたし、さらに肥満となり、併発症が起きやすくなります。
- ②湿疹：皮膚病になりやすくなります。
- ③心臓病：体重・体積の増大による心臓への負担
- ④糖尿病：高インスリン血症や膵炎を伴うランゲルハンス島の消耗をきたす。糖尿病になるイヌの60%は肥満です。
- ⑤膵炎
- ⑥不妊症、難産。
- ⑦全身麻酔や外科手術時に続発する問題。
- ⑧感染症、特にウイルス感染に対する感受性増加。
- ⑨平均寿命の低下。